

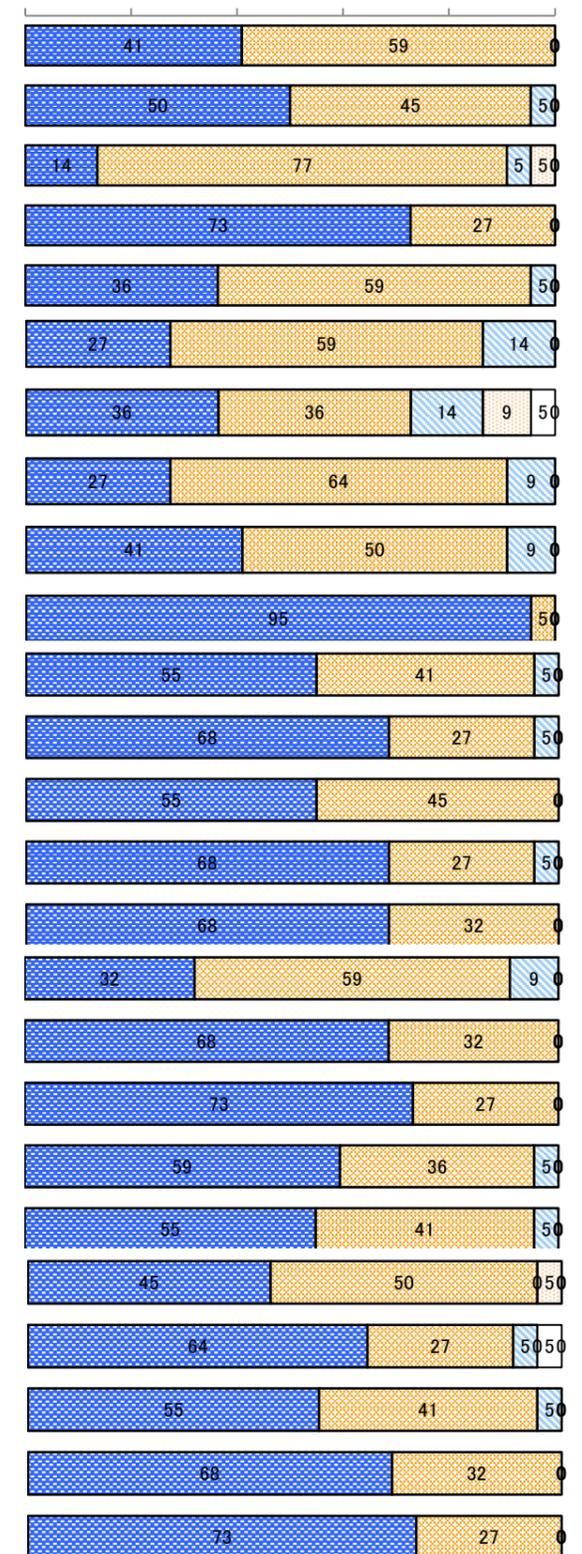
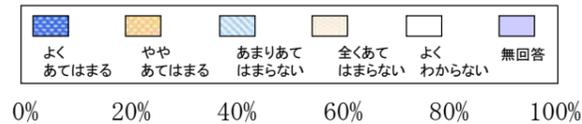
令和6年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立峡田小学校

様式 4

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	48	38	6	1	7	0
	2	児童・生徒の様子	67	26	3	2	2	0
	3	基本的な生活習慣	52	38	7	1	2	0
	4	児童・生徒理解	39	45	11	1	4	0
	5	健康・安全・安心	59	32	6	1	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	51	35	8	2	3	0
	7	個に応じた指導	58	32	5	1	3	0
	8	学習習慣	55	26	11	3	5	0
	9	情報教育	70	21	5	2	1	0
	10	学校図書館の活用	60	28	6	3	3	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	66	28	2	1	3	0
	12	道徳教育	47	35	9	3	6	0
	13	教育相談	47	27	11	6	9	0
	14	人間関係づくり	78	15	3	1	2	0
	15	自治的な活動	60	30	6	1	4	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	59	25	4	1	11	0
	17	相談への対応	57	30	5	1	6	0
	18	学校への参加	58	26	7	3	6	0
	19	地域との連携	45	28	17	6	4	0
	20	意見の反映	39	32	12	3	14	0
各学校の特色ある教育	21	授業規律・集団行動	43	39	12	2	4	0
	22	キャリア教育	52	32	8	2	6	0
	23	外部人材の活用	38	28	20	7	8	0
	24	学習環境の整備	60	29	7	1	3	0
	25	チーム峡田	41	30	11	3	14	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

本校の教育目標が、保護者・地域にもよく理解されている結果となった。今後も学校説明会や学校行事の場で、発信していく。

AB評価とした保護者がほぼ100%となり、昨年度に続いて高い評価となった。今後も児童を中心とした学校づくりを行っていく。

教職員のA評価が14%と学校評価アンケートの全項目の中で最も低い数値となっている。毎月第1週の週目標を基本的な生活習慣についての内容にするなど、全校の意識を向上させる取組を重点的に行っていく。

保護者の評価に比べて児童のC評価の割合が上回る。授業内においても肯定的な声かけが必要。行事の取組で行っている振り返りカードのコメントを保護者に見せ、児童の頑張りを認めてもらう。

保護者のAB評価が96%となった。今年度、児童への予告なしの避難訓練を実施したが、来年度は教職員への予告なしの避難訓練も実施するなど、引き続き、防災教育の充実を図っていく。

保護者の評価が若干下がっているが、児童の評価は上昇している。どの学年も、今まで同様丁寧に授業をしていくことを継続する。

保護者に比べて、児童の評価が10%程度低い。算数が習熟度別でなくなり得点が下がっていることも影響していると思われる。個別指導日や自主学習などを活用し、個に応じた指導を充実させていく。

児童のAB評価が昨年度より7%低くなった。自主学習や長期休業中の学習課題、学期始めの漢字・計算スタートウィーク、放課後補習などの学習習慣を定着させる取組を改善し、充実を図っていく。

保護者のC評価が11%となり、昨年度同様、本校の課題となっている。しかし、児童の肯定的意見は9割を超えている。ICT推進月間や土曜授業公開等を通して、授業での活用法や内容を保護者や地域へ発信していく。

AB評価が昨年度より21%上がった。保護者の理解も上がった。低学年を中心に土曜授業では調べる学習を計画的に実施し、取り組みを継続していく。

児童の肯定的評価が94%と高い水準を保てる。11月のふれあい月間に、保護者への発信を意図的に行っていく。

昨年度よりも保護者からの評価がわずかであるが上昇している。生命の尊さの教材も全体的に少ないので1時間を大切に授業していく。

分からないという評価が多いので、できれば相談専用の部屋を設置したい。厳しければ、看板を出したり、学校だよりや学年だよりでも更に周知したりしていく。児童や保護者で困っている方々に担任から勧める。SCの自己紹介の場を設けたり、教室を巡回したりする。

児童のAが73%から78%と5ポイント上がり、児童のCとDが改善されている。今後もより良い人間関係が築けるよう、児童が実感できるよう、行事の恰好活動を工夫していく。

保護者のA評価が4ポイント上がった。また、児童の自己評価も11ポイント向上している。児童会活動の充実と価値づけを今後も進めていく。

スクリーンの活用が本格的になり、情報発信についても成果が見られる。今後は、学校ホームページの充実も目指していく。

昨年度と変わらず90%近い数値である。SCだよりなどで相談に機会を知らせたり、SCが各クラスを回って紹介したりした。今後は学校だよりでもSC相談について掲載していきたい。今後も全教職員が児童や保護者の思いを受け止めて対応していく。

土曜授業日や運動会、学芸会、道徳授業地区公開講座など、様々な取組で、アンケートなども非常に好評だった。次年度も、充実した教育活動を公開していく。

保護者の評価は高かったが、児童が7割程度の肯定的評価にとどまった。地域行事についてあまり知らない児童も参加しやすくなる声掛けや環境をつくっていく。

意見や要望については個の対応になることもあり、広く知られない案件もあるため、「よくわからない」の回答が目立った。数値に表れにくいですが、今後も、大きな要望が出る前に、より良い学校運営をすすめていく。

昨年度より児童3%、保護者2%の数値が上昇した。今後も授業規律や峡田っ子の約束を守り、落ち着いた学校生活が送れるよう指導を継続していく。

キャリア教育で付きたい力を児童、保護者にも明確にし、そのたえにどのような取り組みをするのか、年度当初に説明する。

保護者の数値は上昇したが、児童の数値は昨年度と同様に低くなっている。効果的に外部人材を活用し、深い学びを実践していく。

今年度も保護者からは高評価であった。学校公開の時には特に整頓や掲示物等、教員同士で声を掛け合って学習環境等整備していく。

保護者の肯定的評価が昨年度より4ポイント上がり、9割に達した。家庭・地域との連携を高めていけるよう、教育活動を発信していく。